

水稻極早生品種「きりり宮崎」安定栽培のための施肥法

小崎 宏・結城利幸¹⁾・河野昌晃 (宮崎県総合農業試験場・¹⁾東白杵農林振興局)

Hirosi KOSAKI, Tosiya YUUKI and Masaaki KAWANO :
Method of fertilizer application for stable high yield in new rice cultivar "Kiriri Miyazaki"

コシヒカリより5日程度早く収穫できる「きりり宮崎」を平成7年度から宮崎県の奨励品種に採用した。そこで、7月下旬に安定した出荷のための「きりり宮崎」の安定生産のための施肥法を検討した。

1. 試験方法

- 1) 試験場所: 宮崎県総合農業試験場内 (細粒灰色低地土)
- 2) 試験区の構成 (1994~'95)

区No.	品 種	N量 (kg/a)		穂肥の施用時期 (出穂前日数)
		基肥	穂肥	
1		0.5	0.3	-20
2		0.5	0.3	-27
3	きりり宮崎	0.5	0.4	-20
4		0.7	0.3	-20
5		0.7	0.3	-28
6		0.9	0.3	-21
7	コシヒカリ	0.5	0.3	-22
8		0.7	0.3	-22

3) 耕種概要

播種期: 2月27日 播種量: 150 g / 箱
 播植期: 3月24日
 移植方法: 30cm × 13.5cm (24.7株) 1株4本手植

2. 結果および考察

1) きりり宮崎のコシヒカリとの出穂期の差が3日程度であったのは、平成6年度のコシヒカリの出穂期が早まったためと考えられた。また基肥N量の増加や、穂肥の施用時期が早くなると出穂期、成熟期が遅くなった。

2) 収量は、区No.7のコシヒカリと比較して標準施肥量 (基肥N量0.5kg/a) では97, 多肥条件 (基肥N量0.7kg/a) では102, 極端な多肥条件 (基肥N量0.9kg/a) では112であった。これは、穂数はコシヒカリよりやや多かったものの、標準施肥量では1穂当たりの粒数がコシヒカリの約9割であったこと、また多肥条件や極端な多肥条件では穂数の増加がそれぞれ収量に影響したと考えられた。

3) 食味はコシヒカリとほぼ同程度であったが、極端な多肥条件や穂肥の多用は、白米中のN含有量が高くなり、食味に影響する可能性があると考えられた。

4) 以上のことから、基肥N量0.9kg/aのような極端な多肥条件では、下位節間の伸長が大きく、倒伏の危険性が考えられ、また食味への影響や、出穂期が遅れたことから、安定的な7月出荷を目標とするには、基肥N量でコシヒカリ並みから40%増を限度とするのが適当と考えられた。穂肥については、出穂期への影響から極端に早い時期の施用は避け、施用量、施用時期はコシヒカリに準じるのが適当と考えられた。

第1表 生育および収量 (1994~'95年)

区No.	移植後60日目			稈長 (cm)	穂長 (cm)	穂数 (本/m ²)	生育ステージ		精玄米重 (kg/a)	収 量 構 成 要 素			
	草丈 (cm)	茎数 (本/m ²)	葉令 (L)				出穂期 (月日)	成熟期 (月日)		穂数 (本/m ²)	粒数 (粒/穂)	登熟歩合 (%)	玄米 千粒重 (g)
1	44.7	610	9.3	70.8	17.6	453	6.24	7.21	57.8 (97)	453	68.9	85.8	21.7
2	43.4	590		70.7	17.6	464	6.25	7.22	58.2 (97)	464	66.9	87.1	21.6
3	43.4	628		71.1	17.7	472	6.24	7.22	60.0 (100)	472	71.1	82.1	21.9
4	45.7	653		73.7	17.7	488	6.24	7.22	61.2 (102)	488	68.2	86.0	21.5
5	45.0	677		73.2	17.7	504	6.25	7.23	62.9 (105)	504	70.7	83.5	21.3
6	47.0	680		75.9	17.5	481	6.25	7.23	67.1 (112)	481	78.4	84.0	21.2
7	46.0	587	9.6	73.0	17.8	441	6.27	7.25	59.8 (100)	441	74.7	87.2	20.8
8	48.5	681		78.0	17.6	474	6.28	7.26	63.3 (106)	474	76.6	87.0	20.7

注) 精玄米重, 玄米千粒重は篩目1.5mm, 水分15%